

# 早春型におけるジャガイモそうか病の発生程度と種いも消毒の重要性

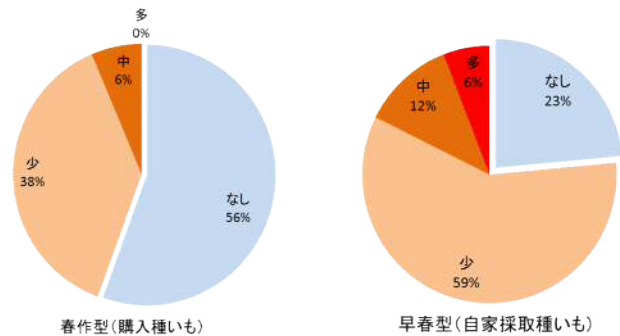
自家採種種いもを使用する早春型は、無病徴の種いもでもそうか病菌に汚染されている可能性が高く、種いも消毒は必ず実施する

## 背景・目的

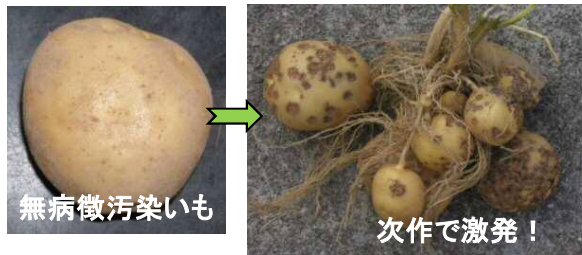
- ・自家採種種いもは無病徴でもそうか病菌汚染の可能性が高いものの、種いも消毒を実施する農家の割合は36%と低い。
- ・耐酸性そうか病菌の出現により、低pH 誘導型の土壌管理ではそうか病を防除できなくなってきた。
- ・土壌pHとそうか病菌種別発病度の関係、早春型と春作型でのそうか病発病度の差から種いも消毒の重要性を確認する。

## 成果の内容

◎早春型は春作型に比べ自家採種種いもが多く、そうか病の発病度が高い！



◎全く無病徴でもそうか病発生圃場からの種いもはほぼ汚染され次作で激発！



**そうか病低減効果** ← 種いも消毒

**発病度60から5へ減少**

**そうか罹病いもの減少**

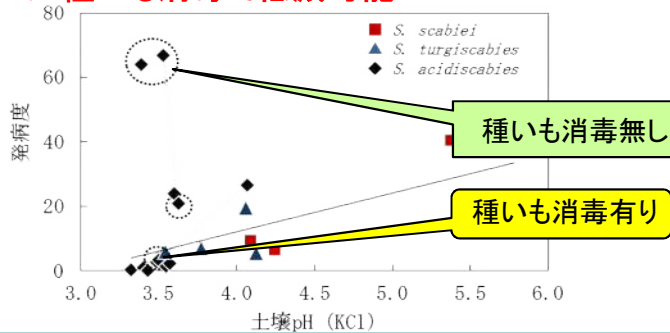
→そうか病による廃棄率2割減  
**収量・品質向上＝所得向上**

- ◎圃場のそうか病罹病いもを放置せず、必ず圃場外へ持ち出し、処分。⇒野良いも除去徹底！
- ◎種いも消毒と罹病いもの除去を繰り返すことで、バレイショそうか病が徐々に減少！

種いも消毒によるそうか病の減少で約7万円/10aの経済効果→所得向上

10aあたり					
商品収量 (kg)	単価 (円/kg)	そうか病廃棄減率 (%)	廃棄減相当販売額(円)	種いも消毒費(円)	損益 (円)
a	b	c	①(a×b×c)	②	①-②
2,000	180	20	72,000	2,000	70,000

◎耐酸性そうか病菌は低pHでも発病度は高いが種いも消毒で低減可能！



・バレイショそうか病の伝染源は、**土壌と種いもの2つ**

・汚染源としては、土壌伝染より**種いも伝染が深刻**

・種いも消毒徹底で**発病度低減可能**

導入メリット

## 期待される効果

- ・バレイショそうか病の減少により商品収量，品質が向上し，農家所得も向上する。
- ・バレイショブランド産地の維持発展につながる。

普及対象・範囲  
青果用バレイショ産地